Press Release
2021/11/04

公益財団法人 東京都歴史文化財団
TOKYO METROPOLITAN FOUNDATION FOR HISTORY AND CULTURE

インクルーシブ・デザインで新しい文化体験を共創する「Cultural Future Camp」始動！

東京都歴史文化財団と筑波技術大学が協働し、オープン・レクチャー《全3回》と短期集中ワークショップ《4日間連続》 を開催します。

バリアフリーや多言語対応などの文化施設における「情報アクセシビリティ」をテーマに、芸術文化活動における情報保障について考え、必要となるアクセシビリティ・コーディネートのスキル、アイデアを障害当事者やアーティスト、クリエイターと共創します。

開催概要

タイトル　**Cultural Future Camp：インクルーシブ・デザインで新しい文化体験を共創する**
Webサイト　https://culturalfuturecamp.rekibun.or.jp　※要申込 / 参加無料　※情報保障支援あり

●オープン・レクチャー《全3回》オンラインZoom開催
日　　程　第1回「身体と文化―「異文化」理解へ向けて」11月23日（火・祝）14:00～15:30
第2回「情報保障学からひらく芸術文化活動」12月12日（日）14:00～16:00
第3回「インクルーシブに向けた文化施設の試み」2022年1月29日（土）10:00～12:00

●短期集中ワークショップ《4日間連続》
日　　程　・ワークショップ 2022年2月17日（木）～20日（日）
・公開フォーラム（成果発表） 2月20日（日）
会　　場　江戸東京博物館会議室（公開フォーラムのみ：オンラインZoom開催）
募集開始　2021年12月（予定）

主催：文化庁、公益財団法人東京都歴史文化財団　協力：国立大学法人筑波技術大学
文化庁委託事業「令和3年度障害者等による文化芸術活動推進事業（文化芸術による共生社会の推進を含む）」

《 取材・広報用画像のお問い合わせ 》

「Cultural Future Camp」PR・運営事務局（株式会社precog内）担当：小仲、関
電話番号：050-5478-5248（10:00～18:00 平日のみ）　Email：press.precog@gmail.com

＊広報用画像は こちら からダウンロードください。
＊共同リリースのため、重複して配信される場合がございます。あらかじめご了承ください。

Cultural Future Camp ：インクルーシブ・デザインで新しい文化体験を共創する

東京都歴史文化財団「クリエイティブ・ウェル・プロジェクト※」と、聴覚・視覚に障害を持つ人を対象とした国内唯一の国立大学である筑波技術大学が協働し、「Cultural Future Camp：インクルーシブ・デザインで新しい文化体験を共創する」を開催します。このプログラムでは、芸術文化における「情報アクセシビリティ」をテーマに、障害当事者を巻き込むデザイン手法「インクルーシブ・デザイン」を取り入れ、オープン・レクチャー（2021年11月～2022年1月／全3回）と短期集中ワークショップ（2022年2月／4日間連続）を行います。

オープン・レクチャーでは、文化施設が合理的配慮に取り組むうえで重要となる知識や、情報保障学を通じた芸術文化活動に関する研究、これからのインクルーシブ・ミュージアムのあり方について紹介します。これらを通じて、文化芸術表現に必要なアクセシビリティ・コーディネートと、文化施設を中核とした共生社会の実現について考えていきます。

また、短期集中ワークショップでは、五感（視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚）を活用した芸術文化鑑賞体験の創造をテーマに、、デザインの専門家や芸術文化活動従事者、障害当事者などを対象に、公募にて選抜した20名の参加者が協働で、芸術文化の新しい楽しみ方の開発に取り組みます。

※クリエイティブ・ウェル・プロジェクトとは

東京都歴史文化財団では、芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢化や共生社会など、東京の社会課題解決への貢献を目指し、高齢者、障害者、外国人、乳幼児等を対象者とした「アクセシビリティ向上」と「鑑賞・創作・発表機会の拡大」に取り組む「クリエイティブ・ウェル・プロジェクト」を令和3年度より実施しています。

《 プログラム概要 》

オープン・レクチャー《全3回》

① 第１回　身体と文化―「異文化」理解へ向けて

本事業の協働企画者である手話言語学・ろう者学を専門とする大杉豊氏と、社会学者である倉本智明氏を講師に、視覚障害や聴覚障害などの身体特性を持つ人々の文化や独自の世界認識／まなざしについて紹介します。おふたりの活動から、それぞれの文化の固有性を「異文化」として捉え、理解していく方法を導きます。本レクチャーを通じ、障害当事者の文化に基づいた合理的配慮とはなにか、文化施設においてなにが合理性となるのかを考えていきます。

日時　2021年11月23日（火・祝）14:00～15:30　※オンラインZoom開催［要申込 / 参加無料］
申込　https://culturalfuturecamp1123.peatix.com/よりお申し込みください。
〆切　11/22（月）12:00
講師　大杉豊（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授）
　　倉本智明（関西大学他非常勤講師）
モデレーター　森司（アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長）
※情報保障支援：日本語―日本手話言語通訳、日本語文字表示、スライド資料の事前提供

講師プロフィール

大杉豊
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授／手話言語学、ろう者学

18歳の手話言語との出会いを「言語文化的に生まれ変わった」と表現する。劇団員、専門学校教員、米国の大学教員、きこえない当事者団体事務局職員などの職を経て、2006年より筑波技術大学に勤務。きこえない学生に手話言語学やろう者学を指導する傍ら、手話言語の歴史的な変化や地域的な差異をテーマにフィールドワークを続ける。全日本ろうあ連盟、全国手話研修センター日本手話研究所、日本アメリカ手話言語協会、現代人形劇センター、国際ろう者スポーツ委員会などで手話言語とろう者文化の社会的認知を求めてグローバルな活動を展開している。http://www.deafstudies.jp

倉本智明
関西大学他非常勤講師／障害学、社会学

20歳代前半までを弱視者として過ごし、以降は全盲者として暮らす。日本における障害学の第一人者として、障害、障害者を社会・文化という視点から捉え直し、「障害者文化」に着目。また、「軽度障害者」の生活世界を記述する。主な編著書に、『障害学を語る』（2000年、エンパワメント研究所）、『障害学の主張』（2002年、明石書店）、『手招くフリーク――文化と表現の障害学』(2010年、生活書院）、だれかふつうを教えてくれ！(よりみちパン！セ)』（イーストプレス 2012年）等。東京大学大学院経済学研究科特任講師（2007年7月～2012年3月）を経て現職。

② 第2回　情報保障学からひらく芸術文化活動

聴覚・視覚に障害を持つ人を対象とした日本国内唯一の国立大学である筑波技術大学。本レクチャーでは、情報保障学の専門教育機関として、情報デザインや福祉工学、音楽情報処理などの研究分野に基づくさまざまな研究事例・プロジェクトの取組について紹介します。「情報保障学」を切り口に、これまでとは異なる視点から芸術文化活動について再考します。

日時　2021年12月12日（日）14:00～16:00　※オンラインZoom開催［要申込 / 参加無料］
申込　11月23日（火・祝）より申し込み開始予定
〆切　12月10日（金）12:00（予定）
講師　小林真（筑波技術大学保健科学部准教授）
　　生田目美紀（筑波技術大学産業技術学部教授）
　　平賀瑠美（筑波技術大学産業技術学部教授）
　　守屋誠太郎（筑波技術大学産業技術学部講師）
　　萩原彩子（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター助教）
モデレーター　大杉豊（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授）
※情報保障支援：日本語―日本手話言語通訳、日本語文字表示、スライド資料の事前提供

講師プロフィール

小林真
筑波技術大学保健科学部准教授／福祉工学

1993年筑波大学第三学群基礎工学類卒業。1996年同大学大学院工学研究科中途退学。同年より筑波技術短期大学情報システム学科に勤務、2007年より現職。博士（工学）。2004年～2005年カールスルーエ大学客員研究員。視覚障害者や聴覚障害者を対象とした支援機器、エンターテインメント、コミュニケーション、教育に関する研究に従事する傍ら、視覚障害のある中高生を対象とした科学学習イベント「科学へジャンプ」に創設期より関わり、サマーキャンプ実行委員長などを務める。
https://www.cs.k.tsukuba-tech.ac.jp/labo/koba

生田目美紀
筑波技術大学産業技術学部教授／情報デザイン、ユニバーサルデザイン

1999年より聴覚障害学生の教育に従事。児童向け指文字学習ソフト（2005年 ACM SIGCHI International Conference on Advances in Computer Entertainment Technology国際会議デモ部門銀賞受賞）を開発し、聴覚障害への理解を促す活動（2007年ヒューマンインタフェース学会論文賞受賞）を行う。2011年から科学系博物館の情報アクセシビリティ研究に取り組む。2019年「科学系博物館の当事者手話ガイドプロジェクト」を立ち上げ、博物館・水族館等での当事者手話ガイドの導入につなげた（国際ユニヴァーサルデザイン協議会IAUD国際デザイン賞 銀賞受賞）。茨城県文化審議会委員。
https://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/it/it_staffs.html#NAMATAME_MIKI

平賀瑠美
筑波技術大学産業技術学部教授／音楽情報処理

「音楽を好きな聴覚障害者がもっと聴いて楽しむことができるようになるには」をテーマに研究に取り組む。聴覚障害のある学生に音楽聴取に関する意見をもらいながら、聴く力を伸ばす、世界中にある音楽にアクセスし好きな曲を見つける、といったことを実現するための環境（システム）を研究している。また、競技場にスポーツ観戦に行き、障害のあるなしに関わらず、プレイ、ルール、選手情報を共有し、場の共有、感動の共有を実現するための「Information Support of Everyone, by Everyone, for Everyone (ISeee) 」プロジェクトを推進している。
http://rhiraga.info

守屋誠太郎
筑波技術大学産業技術学部講師／芸術学、美術教育学

美術教育や彫刻・立体造形の分野で障害の壁を超えた芸術活動やものづくりの楽しさや喜びを共有出来る美術・デザイン教育に取り組む。2011年より、触察や装着が可能な彫刻制作の取り組みと展示を行う。2019年より視覚障害者の作品鑑賞についての研究に取り組み、触察鑑賞に適したサイズや素材について調査中。国立民族学博物館特別展「ユニバーサル・ミュージアム――さわる！“触”の大博覧会」（2021年9月～11月）へ彫刻作品８点を出展。
https://www.tsukuba-tech.ac.jp/department/it/it_staffs.html#MORIYA_SEITARO

萩原彩子
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター助教／情報保障、障害学生支援、舞台手話通訳

2006年度から筑波技術大学に勤務。手話通訳士としても活動。日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局として、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生への支援についての研究支援活動を行っている。もともと舞台演劇が好きだったが、ある日文楽の手話通訳を担当し、その難しさを痛感したことから、舞台芸術分野における手話通訳に関心を持ち始めた。その後、2016年度から舞台演劇における手話通訳に関する研究を始め、海外における舞台手話通訳視察や日本における舞台手話通訳の分析研究等を行っている。
https://www.tsukuba-tech.ac.jp/support/rc/rc_staffs.html#HAGIWARA_AYAKO

③　第3回　インクルーシブに向けた文化施設の試み

国内外文化施設において活躍する研究員やキュレーターを講師に招き、障害当事者とともにインクルーシブに育まれる、文化施設の活動を取り上げます。本レクチャーを通じ、障害当事者とともに共創していく、これからの文化施設のあり方を探求していきます。

日時　2022年1月29日（土）10:00～12:00　※オンラインZoom開催［要申込 / 参加無料］
申込　12月12日（日）より申し込み開始予定
講師　広瀬浩二郎（国立民族学博物館准教授）、ほか
モデレーター　生田目美紀（筑波技術大学産業技術学部教授）
※情報保障支援あり

講師プロフィール

広瀬浩二郎
国立民族学博物館准教授／文化人類学、触文化論

自称「座頭市流フィールドワーカー」。2001年より国立民族学博物館に勤務し、「ユニバーサル・ミュージアム」（誰もが楽しめる博物館）の実践的研究に取り組み、“さわる”をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施。2021年9月より特別展「ユニバーサル・ミュージアム――さわる！“触”の大博覧会」を開催。『ひとが優しい博物館:　ユニバーサル・ミュージアムの新展開』(2016年、青弓社)、『目に見えない世界を歩く』(2017年、平凡社)、『それでも僕たちは「濃厚接触」を続ける！』（2020年、小さ子社）『触常者として生きる―琵琶を持たない琵琶法師の旅』（2020年、伏流社）など著書多数。
https://older.minpaku.ac.jp/research/activity/organization/staff/hirose/index

公益財団法人東京都歴史文化財団

《 開催概要 》

タイトル
Cultural Future Camp：インクルーシブ・デザインで新しい文化体験を共創する
Webサイト　https://culturalfuturecamp.rekibun.or.jp
※要申込 / 参加無料　※情報保障支援あり

オープン・レクチャー《全3回》

※オンラインZoom開催

●日程
第1回「身体と文化―「異文化」理解へ向けて」　11月23日（火・祝）14:00～15:30
第2回「情報保障学からひらく芸術文化活動」12月12日（日）14:00～16:00
第3回「インクルーシブに向けた文化施設の試み」2022年1月29日（土）10:00～12:00
●申込方法
ウェブサイト（https://culturalfuturecamp.rekibun.or.jp）よりお申し込みください。
お申込みいただいた方に、イベント前日までにZoomのURLをお送りいたします。

短期集中ワークショップ《4日間連続》

●日程
・ワークショップ　2022年2月17日（木）～20日（日）
・公開フォーラム（成果発表）　2月20日（日）
●会場
江戸東京博物館会議室（公開フォーラムのみ：オンラインZoom開催）
●募集開始　2021年12月（予定）
●募集定員　20名
●対象
芸術文化活動従事者、情報デザイン専門家、情報支援等分野の研究者、文化施設への課題意識やアクセシビリティに関する研究や開発意識のある方々

開催クレジット

主催：文化庁、公益財団法人東京都歴史文化財団　協力：国立大学法人筑波技術大学
PR・運営事務局：株式会社precog
文化庁委託事業「令和3年度障害者等による文化芸術活動推進事業（文化芸術による共生社会の推進を含む）」

文化庁　公益財団法人東京都歴史文化財団 TOKYO METROPOLITAN FOUNDATION FOR HISTORY AND CULTURE　国立大学法人 筑波技術大学

《 本事業に関するお問い合わせ 》
公益財団法人東京都歴史文化財団 事務局総務課企画広報係　担当：廣田、鹿島
電話番号：03-5610-3500　Email：programs-inquiry@rekibun.or.jp

《 取材・広報用画像のお問い合わせ 》
「Cultural Future Camp」PR・運営事務局（株式会社precog内）担当：小仲、関
電話番号：050-5478-5248（10:00～18:00 平日のみ）　Email：press.precog@gmail.com
＊広報用画像は こちら からダウンロードください。